

平成 27 年度第 1 回遠野市総合計画審議会 — 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 平成 27 年 4 月 21 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分
- 2 場所 遠野市役所とびあ庁舎 大会議室
- 3 出席者

(1) 委員

会長	臼井 悦男	遠野市社会福祉協議会会長
副会長	荒田 良治	一般社団法人遠野市観光協会会長
委員	千葉 和	NPO 法人遠野エコネット代表
委員	千葉 純子	一般社団法人遠野市医師会会長
委員	菊地セツ子	遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会会長
委員	河野 好宣	遠野市体育協会会長
委員	菊池 一晃	遠野市民生児童委員協議会会長
委員	松田 希実	遠野市わらすっこ支援委員会副委員長
委員	菊池 一勇	花巻農業協同組合理事
委員	濱田平八郎	遠野地方森林組合代表理事組合長
委員	佐々木弘志	遠野商工会長
委員	小松 正真	一般社団法人遠野青年会議所理事長
委員	菊池香南子	遠野市校長会副会長
委員	佐々木國允	遠野市郷土芸能協議会会長
委員	菅沼 隆子	一般財団法人遠野市教育文化振興財団副理事長
委員	海老 糸子	遠野市地域婦人団体協議会会長
委員	木村 稔	岩手県南広域振興局経営企画部長
委員	佐々木栄洋	公募
委員	菊池 広樹	公募
委員	高宏 美鈴	公募
代理	工藤 和信	遠野市 P T A 連合会副会長

(2) 遠野市

本田 敏秋	市長
菊池 孝二	副市長
藤澤 俊明	教育長
菊池 文正	経営企画部長
飛内 雅之	経営企画部まちづくり再生担当部長
菊池 永菜	経営企画部 I C T ・ 医師確保担当部長
荻野 優	総務部長
沖舘 謙	健康福祉部福祉課長
佐藤 浩一	産業振興部長
大里 政純	農林畜産部長
仁田 清巳	環境整備部長
小向 孝子	遠野文化研究センター一部長
小時田光行	消防本部消防長
立花 信一	市民センター生涯学習スポーツ課長
多田 博子	教育部長兼子育て総合支援センター所長
鈴木 英呂	企画総括課長
澤村 一行	財政担当課長
千田 孝喜	まちづくり再生担当課長

伊藤 貴行 ICT・医師各所担当主管
佐々木一富 子育て総合支援課長
米内 臣一 教務課長

4 欠席者

委員 松田 克之 遠野市消防団団長
委員 内館 充幸 遠野市区長連絡協議会会長
委員 鳥屋部恵児 公募
委員 菊池 浩彦 公募

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 出席者報告及び日程説明
- 5 報告
 - (1) 次期遠野市総合計画策定予定について
 - (2) まち・ひと・しごと推進に係る組織体制について
 - (3) 市役所本庁舎整備事業について
 - (4) 第2次遠野市進化まちづくり検証委員会の中間総括等について
 - (5) 平成27年度当初予算の概要について
- 6 審議
 - (1) 子育て環境のあり方の答申案について
- 7 答申
- 8 その他
- 9 閉会

(配付資料)

- 1 次第、名簿
- 2 次期遠野市総合計画策定予定について(報告資料N01)
- 3 まち・ひと・しごと推進に係る組織体制について(報告資料N02)
- 4 市役所本庁舎整備事業について(報告資料N03)
遠野のまちづくりを考える市民ワークショップ提言書
- 5 第2次遠野市進化まちづくり検証委員会の中間総括等について(報告資料N04)
- 6 平成27年度当初予算の概要について(報告資料N05)
- 7 子育て環境のあり方の答申案について(審議資料N01)
- 8 新エネルギービジョン

(議事概要)

1 開会

○菊池文正 経営企画部長

定刻前ですが、本日までご出席の皆様がお揃いですので、ただ今から始めさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から平成27年度第1回遠野市総合計画審議会を開催いたします。

私は、本日進行いたします経営企画部長の菊池です。よろしくお願いいたします。初めに遠野市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○本田敏秋 遠野市長

皆さん、大変ご苦労さまでございます。今日は、4月21日であり、連休まで桜がもつかどうか、今後、入部行列等も企画されておりますが、多分、散ってしまうのではないかと心配しております。

先般のちょい飲みはしご酒では、400人近い方々が楽しんだと報告を受け、大変良かったなと思っております。皆様のお力によりまして、4月25日にはSL銀河が初日を迎えます。平成27年度も定期運行ということで、SLが遠野に様々な情報のみならず、賑わいをもたらしてくれると楽しみにしております。定期運行につながったことも、SL停車場プロジェクト、そして推進委員会の皆様のお力によりまして、お出迎えお見送りという中におきまして、心のこもったおもてなしで対応していただいたことが、今年も引き続き定期運行につながりました。市民の皆さんの力といったものに、心強い手ごたえを感じているところであります。

今日は、第1回の総合計画審議会を開催させていただきました。年度初めの大変忙しい中をご出席いただきまして誠にありがとうございます。

子育て環境のありかたについて、1月26日に開催いたしました平成26年度第3回遠野市総合計画審議会におきまして、子育て環境のあり方について諮問いたしました。これは大きな課題でありました。今年の10月1日がまいりますと、合併して10年になります。本当に皆様のお力によりまして、それぞれの新遠野市としてのまちづくりが、着実に歴史を刻んでまいりました。その中にございまして、子育て環境のあり方というのは、大きな市政課題でありました。そして、臼井会長、荒田会長、10名の皆様による専門部会を立ち上げていただきました。2回に渡りまして、2月20日、3月20日と、それぞれ大変濃密な議論をいただき、その会議録も読ませていただきました。本当にありがたい内容のある議論をいただいたと思っております。臼井会長には、専門部会の中で非常に内容のある議論をいただきましたことにつきまして、この場をお借りしまして感謝を申し上げたいと思っております。そして、今日は、2回に渡る専門部会の検討結果が報告され審議をいただくということになりますので、よろしくお願いいたしますと思っております。

また、この子育て環境のあり方という大きなテーマとは別に、今年第1回の会議でございますので、市政課題の大きな項目につきまして、委員の皆様にご報告申し上げたいと思っております。

ひとつは、次期遠野市総合計画の策定についてであります。6月定例議会をめぐりに基本構想を提案申し上げご審議いただき、12月議会では基本計画を提案したと思っております。そして、28年度を初年度とする前期5カ年、後期5カ年とする10カ年計画として策定するという作業が本格化いたします。市にとって一番の上位の機関である市総合計画審議会ですので、よろしくお願いいたします。

それから皆さんもご存じのとおり、まち・ひと・しごと推進に関する組織体制を説明いたします。これは、地方創生法という中で、国が本格的に市町村を応援するという法律が制定されました。まち・ひと・しごと創生戦略本部を立ち上げ、国が市町村に職員、交付金を、さらには情報発信をということで、官学民金労言といった言葉が並んでおり、官民挙げて少子化、人口減少問題、そして産業振興に取り組もうということです。行政だけではありません。冒頭申し上げましたが、ちょい飲みはしご酒、SL停車場プロジェクト、町家のひなまつり、入部行

列がといったものが、そして、遠野ふるさとまつりにつながっていく部分は、まさに遠野が誇るべき官民一体となった取り組みであります。この、まち・ひと・しごとの推進に関する体制も、自然体の中で遠野がこれまで行ってきた仕組みを大事にしながら、そして総合力として示せば、まち・ひと・しごとの総合戦略も策定できるのではないかと考えております。人口ビジョン、地方版総合戦略を10月に策定しなければなりません。従いまして、総合計画と整合性を図りながら作業を進める中で、事務局がしっかりしなければ、市民や民間の皆様の協力を得ることができないわけですので、事務局体制を整備しました。昨年、部局横断的に対応しようと、子育てするなら遠野推進本部と六次産業推進本部を立ち上げました。まち・ひと・しごと創生法が見えてきたときに、私は、子育て、六次産業といった切り口の中から、産業振興を行うのが地方の活性化だということが明確に法律の中で組立てられています。なんのことはなく、遠野市では、先行的に取り組んでいるという自信と誇りにしながら、総合戦略をきちんと策定することとし、事務局体制を整備いたしましたので、その概要を説明いたします。

また、市役所本庁舎整備について、委員の皆様から建設的なご意見をいただきました。おかげさまで、地権者の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご理解とご協力をいただきました。前回の1月26日での説明後の経過について、本日説明いたします。

第2次遠野市進化まちづくり検証委員会から中間総括をいただいております。これは、広報遠野4月号において、詳しくお知らせしておりますが、新たに地域コミュニティーを大切に、集落を崩壊させてはなりません。土淵町で開催した市長と語ろう会で、このような話がありました。まさしく、わが意を得たりと思いましたが「市長、私たちが頑張れるうちに、集落、コミュニティーを、きちんとしたものに再編しよう。タイミングを失ってしまうと、頑張りがたくても頑張れなくなると。そういう時代になると。頑張れるうちに頑張る」とのお話でした。第2次進化まちづくり検証委員会も、そのような視点に立ち、消防団とどのように連携をとるのか、あるいは、自治会、自主防災組織を含め、どのような連携をとるのかといった新たな仕組み作りを行わなければなりません。40年前に遠野市は、市民センター、トオノピアプラン、カントリーパーク構想という、まさに当時としては先進的な取り組みを行ってきたのが、遠野物語ファンタジーに代表されるように、40年の時を経ても、今なお光り輝いている一つのイベントになっていることを思えば、頑張れる内は頑張るという市民の声を素直に受け止めて、皆様と一緒にタッグを組みながら新たなコミュニティーを形成してまいりたいと思います。その議論の様子などもご報告したいと思います。

最後には、平成27年度当初予算の概要について説明いたします。210億8千万円という予算を組ませていただきました。新遠野市となって200億円を超える予算規模は、初めてであります。本当に大丈夫かと多くの市民の皆様に、心配をおかけしております。様々な形で我慢をしていただきました。行わなければならない課題は、たくさんありますが、我慢していただきました。一方においては、国の方から財源支援をいただきました。市民センターも社会資本総合整備交付金という国交省の交付金を得ることにより、大規模に耐震補強とリニューアルを行うことができました。体育館とプールが、いよいよオープンします。国の支援で可能となりました。

庁舎も一時は、拙速ではないかとの多くの声もありました。もっと慎重に行うべきとの声もいただき、謙虚に耳を傾けました。しかし、18億円という国の手当てを、チャンスを逃すわけにはいきません。背に腹をかえるわけにはいきません。そのようなこともあり、思い切って中心市街地の活性化という一つの大プロジェクトの中に本庁舎を位置付けたわけであります。このままバイパス沿いに広い用地を確保し、総合庁舎を建てることも考えとして無いわけではありません。しかし、人口が減少していく中で、どのようにして中心市街地のにぎわいを取り戻すかという部分では、本庁舎問題も大きなまちづくりであるという視点として取り組みました。これが、皆様のご理解をいただき着工するめどが立ちました。国からの財源支援をいただくこととなりました。それらを併せて210億8千万円となります。

なお、現在、市長と語ろう会を開催しております。4月15日の遠野町を皮切りに土淵町でも開催しました。本日、この後、達曽部地区で開催する予定であり、5月20日まで、全地区をまわることとしております。特に、コミュニティーのあり方については、市民の皆様から丁寧に、それぞれの視点に立ったご意見をうかがいながら再編成をしてまいりたいと思っております。

最後になりますが、課題を一つひとつ丁寧に掘り起こし、それを丁寧に組み立て、そして市民の皆様に丁寧に説明するという、当たり前のことを当たり前のこととし、進めてまいりたいと思いますので、委員の皆様にもそのような視点に立ちまして、それぞれの課題、プロジェクトについて、更なるお力添えをいただきますようお願いをいたしまして、冒頭のあいさつに代えさせていただきます。

よろしく申し上げます。

3 会長あいさつ

○菊池文正 経営企画部長

続きまして、臼井会長よりご挨拶をお願いいたします。

○臼井悦男 会長

会長を仰せつかっております社会福祉協議会の臼井悦男と申します。よろしく申し上げます。

新年度がスタートしました。10月を迎えますと、新しい遠野市ができて10年の節目を迎えます。新聞やテレビで様々な報道に触れるたびに、遠野市のまちづくりが勢いよく進んでいることを知ることができ、大変うれしく思っております。

3月31日で、遠野市の人口が28,830人になったと遠野市のホームページの数値を見て、気がかりではありますが、皆様とともに誇りを持ってまちづくりにかかわっていきたいと思います。

本日は、5項目に渡ってご報告をいただきます。また、審議では、第3回の審議会で諮問いただきました件について、10人の専門部会を2回開催し、4時間30分位にわたり議論いたしました。そのことを報告し、全体の審議会としての意見としてまとめて答申につなげていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

4 出席者報告及び日程説明

○菊池文正 経営企画部長

ありがとうございます。4番に入ります。出席者報告及び日程の説明についてです。

本日、委員の皆さま方の出席状況は、25名中、代理出席も含めまして21名の皆さまにご出席いただきました。ありがとうございます。

また、今回、役員改選等によりまして、新たな委員に委嘱いたしました方々をご紹介申し上げます。お二人です。

遠野市校長会副会長、菊池香南子委員です。

(よろしく申し上げます)

岩手県南広域振興局経営企画部長 木村稔委員です。

(よろしく申し上げます)

なお、お二方には、予め机の上に辞令書を置かせていただいております。よろしく申し上げます。

次に、市の出席者についてでございます。会議資料の2ページ目に記載しておりますので、紹介は省略させていただきます。

次に、本日の配付資料について、ご確認をお願いします。

ひとつは、次第と名簿。二つ目は報告資料N01、報告資料N02、報告資料N03、報告資料N04、報告資料N05です。そして、本日の審議資料N01は、事前送付しております内容を一部修正しておりますが、主となります意見、まとめは変更ございませんので、よろしく申し上げます。

さらに、遠野市新エネルギービジョンについて、このほど製本しましたので、お手元に配付させていただいておりますので、よろしく申し上げます。以上が、本日の資料となっておりますが、配付もれ等は、ございませんでしょうか。

この後、報告事項5件について30分程度ご説明、ご報告申し上げます。

その後、本日の審議事項に入ります。(1)の子育て環境のあり方の答申案については、説明、

質疑を含めまして 60 分程度を想定しております。なお、本日、修正等で大きなものがなければ、本日、答申をしていただきたいと思いますっております。

終了時刻は、午後 3 時 30 分頃を予定しております。それでは、これから 5 の報告事項からは、進行を臼井会長にお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

5 報告

(1) 次期遠野市総合計画策定予定について

○臼井悦男 会長

それでは、次第の 5 の報告に入ります。

(1) の次期遠野市総合計画策定予定について、説明をお願いします。

○鈴木英呂 企画総括課長

4 月から企画総括課長となりました鈴木英呂です。よろしくお願いいたします。

* 下記資料を説明 (約 5 分)

・ 次期遠野市総合計画策定予定について (報告資料 N01)

○臼井悦男 会長

報告事項ではありませんが、確認したい事項等ありませんか。

○佐々木國允 委員

市民と職員とのワーキングとは、どのようなものですか。

○鈴木英呂 企画総括課長

総合計画は、市の全ての分野にかかわることですので、それぞれの分野に分けて、例えば、福祉、教育、環境整備等の分野で、それぞれ担当する職員も一緒になって、進めていくことを考えております。

○佐々木國允 委員

分かりました。地区を対象にするのはないのですね。

○鈴木英呂 企画総括課長

現在のところは、施策の分野毎で考えております。

(2) まち・ひと・しごと推進に係る組織体制について

○臼井悦男 会長

他にありますか。

では、(2) のまち・ひと・しごと推進に係る組織体制について説明願います。

○鈴木英呂 企画総括課長

* 下記資料を説明 (約 4 分)

・ まち・ひと・しごと推進に係る組織体制について (報告資料 N02)

○臼井悦男 会長

総合計画との関連を持ちながらとの説明でしたが、私たちは、このような会議で情報をいただいたり、それに基づき議論したりすることになると思いますが、そういうことでよろしいですか。

○鈴木英呂 企画総括課長

人口ビジョンとかは、今後の総合計画を策定することと同じようなイメージで進める部分も

ありますので、その辺との整合性を図っていく形で考えています。
皆さんからありませんか。

○佐々木國允 委員

スタッフというか進める方々への連絡調整は、進んでいますか。これからですか。

○鈴木英呂 企画総括課長

外部有識者等は、これからとなっております。

○佐々木國允 委員

議会との関係については、どうなりますか。

○鈴木英呂 企画総括課長

人口ビジョン、総合戦略策定にあたっては、議会と両輪となって進めていくように国から言われておりますので、そのとおり進めてまいります。

(3) 市役所本庁舎整備について

○臼井悦男 会長

この審議会の議論の中で、我々の役割を、みんなで力を合わせて果たしていきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

他にありますか。では、次に進めさせていただきます。

○飛内雅之 まちづくり再生担当部長

まちづくり再生担当部長の飛内です。よろしくをお願いします。

*下記資料に基づき説明（約6分）

・市役所本庁舎整備事業について（報告資料N03）

(4) 第2次遠野市進化まちづくり検証委員会の中間総括等について

○臼井悦男 会長

このことについても、質問等、ありますか。

特になければ、了として、(4)の進化まちづくり検証委員会の取組みについて報告をお願いします。

○鈴木英呂 企画総括課長

*下記資料を説明（約4分）

・第2次遠野市進化まちづくり検証委員会の中間総括等について（報告資料N04）

○臼井悦男 会長

皆さん、意見をお願いします。

○河野好宣 委員

総合計画の予定では、審議会の7回、8回が10月となっていましたが、今回の資料では11月にもあります。11月にも開催予定とのことですか。

○鈴木英呂 企画総括課長

ボリュームについては、今のところ確定的なお話はできませんが、併せてお願いしたいと思います。

○白井悦男 会長

他にはありませんか。市長と語ろう会のテーマにもなっているところですので、それぞれの地域で、地域の皆さんと共に参加していただきたいと思います。

(5) 平成 27 年度当初予算の概要について

○白井悦男 会長

それでは、(5)の平成 27 年度当初予算の概要について、説明をお願いします。

○澤村 一行 財政担当課長

この 4 月より財政担当課長を務めております澤村です。よろしくお願いします。

* 下記資料を説明 (約 12 分)

・平成 27 年度当初予算の概要について (報告資料 N05)

○白井悦男 会長

お気づきの点等、お願いします。

○菊池一勇 委員

健全財政の強化については、実施しなければならないことだと思います。

経常経費は一律 3%減とのことで、補助金についても同じだとの説明がありましたが、一律に減ではなく、逆に予算措置をしなければならない組織なり事業もあると思います。一律の削減については、色々検討されたことだと思いますが、意見等は無かったですでしょうか。

○澤村一行 財政担当課長

説明が、不足した点があったと思います。総額で 3%の削減ができたとのことであり、各団体への補助金を一律 3%減額したものでありません。それぞれの団体の事情等があると思いますので、考慮し、努力目標として対応いただいた分が、総額で 3%削減が可能であったということでもあります。

○佐々木弘志 委員

自治体の財政については、よく分からないのですが、説明では、遠野市は健全であるとのことですが、何を見て健全であるのか簡単に説明をお願いします。

○澤村一行 財政担当課長

グラフで示している緑色が本市の借金ですが、本市は、過疎債、地方債等、国から 70%が地方交付税に参入され補填される事業を選んで借入れを行っています。

実質の部分で、平成 27 年度は 219 億円の借金ありますが、後年度に毎年入ってくるわけですが、この部分の 70%を差し引いた部分として実質は 66 億円となります。

さらに、基金として事業に活用できる部分もありますので、財政力等を示す指数とかはあると思いますが、その中でも、県内の他市と比較しても財政状況は健全な状況にあります。

○鈴木英呂 企画総括課長

補足で説明いたします。今日の説明では、借金の状況を説明しましたが、実際には赤字比率であるとか、将来の負担を何%位で返せるとかなど様々な指標があります。その中でも、国等から示されている指標の値がありますが、本市の指標はそれよりも下回っておりますので、これらを持って健全であるとしております。この詳しい指標については、9月の決算でも議会に提案しているところであり、本日は、そこまで用意しておらず、申し訳ございませんでした。

○白井悦男 会長

その他、ございませんか。

遠野テレビで、議会を中継していましたが、色々議論があつて、最終的に仕上がったもの

ですし、短い時間での説明で大変な部分もあったと思います。
報告は、これをもって終了としてよろしいですか。

6 審議

(1) 子育て環境のあり方の答申案について

○臼井悦男 会長

それでは、6の審議に入ります。

10人のメンバーで専門部会を設置し、議論しましたので、その結果を事務局から報告していただきます。その後、皆さんと意見交換をしたいと思います。できましたら、本日、答申まで行いたいと思いますので、よろしくをお願いします。それでは、説明をお願いします。

○鈴木英呂 企画総括課長

*下記資料を説明(約5分)

・子育て環境のあり方の答申案について(審議資料N01)

○臼井悦男 会長

検討経過とまとめを報告していただきました。この後、意見をさせていただきます。テーマが2つありますので、このテーマごとに意見交換をしていただきますので、よろしくをお願いします。

専門部会のメンバーは10人でしたので、比較的話しやすく色々な意見交換をいたしました。ここに記載されていること、記載されていないこともありましたが、このような内容でまとめさせていただきました。

専門部会のメンバーも、意見をお願いします。

なお、ここに記載されているまとめが、答申の内容となります。

○菊池一勇 委員

県立高校の再編に関し、その後、何らかの動きとか、何か示されましたか。

○藤澤俊明 教育長

昨年、ブロック単位での説明があり、パブリックコメントが実施されましたが、それを受けての新たな方針等はまだまだですが、今後、示される予定となっております。

○河野好宣 委員

合併以来、大きな課題であり、議会でも話されて今日にいたっています。

一元化になれば、職員の待遇の格差も出てくると思いますが、それらは、今後の課題かと思いますが、現状はどのようになっていますか。

○臼井悦男 会長

専門部会でも、そのような意見はありました。事務局からお願いします

○菊池文正 経営企画部長

現段階では、相手方を社会福祉法人遠野市保育協会とし、内部では協議をしております。現在の公立の3幼保の職員について、一元化に向けてどうあるべきかの具体的なつめを現段階では行っております。これから手順を踏み、答申に基づき進めてまいります。

○臼井悦男 会長

職員のことも大きな課題の一つであるとして議論しましたが、それも含めてですが、大きな視点でどうあるべきかを考え、それに向かって進めていこうとの趣旨です。

○菊池一勇 委員

私は、専門部会の委員でしたが発言いたします。この件は、河野さんが発言されたとおり、市村の合併の時から課題でありました。いずれ、旧遠野市民の方は、あまり問題はないと思います。旧宮守村では、村営で行って行っていましたので、職員の扱いとか色々な関係で、すぐにはまとまりませんでした。町内で具体的に聞いたわけではありませんが、今では、あまりこだわっていないと思います。合併して10年が経過しましたので、市として進めてよいと思います。問題は、宮守町への説明を丁寧に行うことだと思います。

○多田博子 教育部長兼子育て総合支援センター所長

私は3月まで、宮守総合支所長をしておりました。平成24年度に、宮守町内を回ってお話をうかがいました。しかし、その時の状況と、現在の幼保、子どもたちの状況が、大きく違っており、保護者の皆さんにとっては、当時24年度は保育協会の存在が、あまり知られていなかったこともあり、それから2年が経過し、色々な形で保育協会のことも分かり、それから子育て環境がかわってきていますので、宮守町への説明は、今後も保護者、地域での丁寧な説明していきたいと考えております。

○佐々木弘志 委員

幼稚園と保育所の一元化とありますが、幼稚園は文科省で、保育園は厚生労働省だと思うのですが、一緒にするのは可能でしょうか。

○多田博子 教育部長兼子育て総合支援センター所長

今も、幼稚園は文科省で、保育所は厚生労働省と省庁は違いますが、新たに認定こども園の制度ができ、縦割りではない形での幼保が一体となった施設も選べるようになっていきます。

なお、ここで言っている運営の一元化というのは、公立の運営のことで、旧遠野市は保育協会が運営、旧宮守村は遠野市で運営しておりますので、この運営についての一元化についてです。

○臼井悦男 会長

10人の専門部会では、保育協会を代表する方が入った議論ではありませんので、今後の取り組みにおいて、大事なことは方向性を見出すことです。それが固まれば、当事者となる保育協会と真摯に協議を重ねていただくと。なお、運営は、柔軟に対応できるような制度ができています。

当然、保育協会とも協議を進めているようですが、方向性がこれで良いのかということと、表現をなおした方がよいとかありませんか。

よろしければ、最後にもう一度確認することとし、高校再編についてお願いします。

○小松正真 委員

まとめの文章で「遠野緑峰高校は、商工会や建設業界等の連携により」とあえて建設業を入れていますが、緑峰高校は農業というイメージが強かったのですが、今後、建設業界に就職させるための教育をするという意味なのか、逆に建設業界が農業関係に進出するから農業を勉強している人が必要となるのか確認したいです。

○佐々木栄洋 委員

専門部会の委員として議論しましたので、その経緯を踏まえてお話ししたいと思います。

専門部会では、色々な意見がありました。時間も予定よりオーバーして議論しました。結論から言えば、建設業界では、遠野緑峰高校の卒業生を受け入れて育成していきたいとの考えがあるということを発表したのですが、そのことで、建設業界をそのまま文章に入れるのがふさわしいかどうかは議論をお願いしたいと思います。内容については、どちらの考えもあります。

なぜ、建設業界が出たかと言えば、県内の農業高校はいくつかありますが、建設関係の農業土木科を持っているのは、他の農業高校より志願倍率が高かった事実と、実際、農業高校を卒業した生徒の就職先として建設業界を選んでいるという事実も踏まえて、受け入れ先も、高校

側とタッグを組んで色々な知恵を出していくことは良いのではとの意見を述べたところです。

○臼井悦男 会長

社会福祉協議会では、今年、緑峰高校から2人の卒業生を介護の職員として採用しました。では、介護科があるのかと言えば無いのですが、そういう地域の産業界の要望にも応えるような学校になってほしいとの議論を行いました。しかし、表現が、そのような思いになっている、なっていないとなるかもしれませんが、そのような議論を行いました。

表現は、どのようにしたらよろしいでしょうか。

○佐々木國允 委員

「商工会や建設業界など産業界との連携により」とかでは、どうですか。

○佐々木栄洋 委員

建設業も商工会に所属していますので、遠野市商工会だけでも良いと思います。

○佐々木弘志 委員

商工に限定する必要はないわけですよ。それなら、産業界とかでもよいと思います。

○佐々木栄洋 委員

特色を出す必要があるとの意見もあったので、産業の中でも商工等が出てきた部分もあります。しかし、色が少し強すぎるのもどうかということはお指摘のとおりかと思えます。

○佐々木國允 委員

産業界となった場合、括弧書きで具体的なことを記載した方が、説得力があると思えます。

○臼井悦男 会長

事務局から何かありますか。

○菊池文正 経営企画部長

専門部会に参加していただいた委員のお話のとおりで、原案をまとめるにあたり、遠野市として何が提案できるかという部分は、かなり悩みました。最初は、地域産業界という言葉でいたのですが、各委員の皆さんからは、具体性を、そしてより説得力があるという部分のご意見を多数いただきましたところですが、ここは議論していただきたいと思えます。

○佐々木弘志 委員

商工や建設業となりますと、商工会の中でも特に建設業ととらえるかもしれません。そうになると、製造業はどうなのかとなりますので、地元産業とか地元重視の方がよいと思えます。

○佐々木栄洋 委員

弘志委員の発言のとおりかと思えますが、他の高校を意識した中で、特色をどのように出すかという部分ですので、地元産業界でよいとは思いますが、その中で、いかにして遠野の色を、県の委員会に届く意見を出せるかという部分もあると思えます。

○小松正真 委員

先ほど、まち・ひと・しごとでも、六次産業が出ていましたが、遠野緑峰高校で農業を入れてなくても良いのかどうか。農業や六次産業もあっても良いと思えます。

○臼井悦男 会長

就職先のことでの視点になっていました…。

○佐々木弘志 委員

緑峰高校の就職先とかは、どのようになっていますか。

○大里政純 農林畜産部長

私も緑峰高校にかかわってきていますが、生産技術科と情報処理科の2つの科があり80人の定員です。今年状況では、生産技術科は40人の定員通りですが、情報処理が18人だったと思いますが定員に満たないのですが、このことは、ここ数年続いている状態です。

農業の関係では、進学する方と、地元に残り就職する人がいますが、全体的に見れば就職する人がほとんどです。生徒の考え方を聞くと、どちらの科であっても地元就職したい意識が非常に強いと認識しております。

そういった中で、誘致企業とかで採用が確保されてきており、高校生の地元就職が進んできており嬉しいと思います。

これから、誘致企業等で人材を欲しがっている状態ですので、高校がいかに対応していくかという部分が、高校の存続のポイントだと思っています。農業でも良いと思いますし、情報処理も、いかに特色を付けて卒業をした後に即戦力となるように、地元企業との連携があれば良いと思います。後段の部分は良いと思いましたが、建設業の部分は、協議をいただければと思います。

○佐々木國允 委員

今のお話のとおり状況かと思えます。県立の農業関係の高校で言えば、栄洋委員が発言されたとおり、建設関係の科を設置している学校もありますし、環境科学という名称で造園の資格を所得する形になっています。遠野の場合は、農業といってもホップとか肉牛とか、大規模に行っている人を除けば、地元の会社に就職している場合が多いと思います。今、大里部長が発言されたように、先のことを考えますと、色々な誘致企業に対応できるとか、職業人として学べるような特性を持たせた学校、内容に考えていければと思っています。

○臼井悦男 会長

前回資料をいただいておりますが、平成25年度の卒業生は78人で、市内に就職した方が30人、主な就職先は、ムサシ電子、遠野精機とかです。

「地元産業界等の連携により」というのが、包括するような話でしたが、その時は、括弧書きの方がよいとの意見もありました。

○菊池一勇 会長

残すのが基本ですので、農業も記載して、産業界と連携しながら良いと思います。農業が衰退すれば、遠野はだめになりますので、農業は必要です。

○臼井悦男 会長

農業は就職というより、自分の家の仕事に就く印象なので、このような感じになったのですが、農業も大事ですね。

○菊池文正 経営企画部長

この件については、一度、会長、副会長と協議させていただき時間をいただきたいのです。

○菊池一勇 会長

高校再編は、非常に大きな課題であり、各地で議論されていると思います。生徒数は少なくなくても、地元では残してほしいと思います。

宮守の情報ビジネス校の関係で、携わったのですが悩ましい問題がたくさんあると思います。何とか運動を行い校舎まで作っていただいたのですが、どうしても、最後は、県教委が出す要求をクリアできずに、廃校になった経緯があります。

この文面でよいと思いますが、文面だけではなく、本当に2校を残すとなれば、今後、市長は県教委に要望していくと思うのですが、その後の市民を巻き込んだ運動をですね、今はあま

りはやらないのですが、存続同盟会等、何らかのアクションがないと、県教委の出した基準を飲まざるをえないと、簡単にはクリアできないと思います。

○臼井悦男 会長

他になければ、お時間をいただいて文面を整理し、その後、皆さんにおはかりします。

専門部会でも、出生数を見れば、いつまでも2校存続を言うのは難しいとの意見もありました。しかし、遠野市の姿勢として、このようにまとめたしだいです。それでは、10分程休憩といたします。

(休憩)

○臼井悦男 会長

事務局と協議し、案をまとめましたので報告いたします。それでは、報告願います。

○菊池文正 経営企画部長

それでは、修正案をお示ししたいと思います。

はじめに、公立保育所・幼稚園の運営一元化については、修正箇所が2つあります。

3行目ですが「安定的な経営」とありますが「安定的な運営」に。そして5行目で「会に運営を移行する方向で」の「運営を」を削除して「会に移行する方向で」に。

今後の県立高等学校のあり方については、10行目「商工会や建築業界等」を「就農はもとより地元産業界」に訂正をお願いします。

あと、見出しで、「県立高等高校」を「県立高等学校」に訂正をお願いします。

○臼井悦男 会長

以上として答申したいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)。

ありがとうございます。たくさん議論をいただき仕上げることができました。感謝申し上げます。

7 答申

○菊池文正 経営企画部長

ご審議、ありがとうございました。これより、臼井会長から市長に対し、子育て環境のあり方について答申を行わせていただきます。市長は、会長席にご移動をお願いします。

○臼井悦男 会長

遠野市長本田敏秋様、遠野市総合計画審議会会長臼井悦男、子育て環境のあり方について(答申)。平成27年1月26日付け遠企広第177号で諮問がありました標記について、当審議会は、下記意見を付して答申します。記以下は、先ほど議論したとおりですので、よろしく願います。

(拍手あり)

○菊池文正 経営企画部長

ここで、市長からごあいさつを申し上げます。

○本田敏秋 市長

皆さん、大変、ご苦労様でした。ただ今、臼井会長から、子育て環境のあり方について、真剣な議論の中から答申を受けました。

専門部会を設けての議論、そして、本日は、全体での答申に対する活発な意見が交わされました。従前であれば、役所方式と言いますか、事務局で用意をした案に対し追認ということが

これまでよくあった例かと思いますが、修正がかかるということは、大きな進歩だと思います。本当にうれしく思いました。これが、審議会だと、市民の声であるとして、本市も大きく市民協働の仕組みが、今日の議論からも確実に手ごたえを感じたところです。

子育て環境については、発想を変えなければならないと常日頃から感じております。様々な仕組み、戦後 70 年の時の経過がありました。教育委員会制度も大きくかわります。過日、全国の基礎自治体の市長が集まり、教育再生首長会議を立ち上げ、私もそのメンバーに入りました。世の中は、大きくかわっています。ただ変えるのではなく、これまでの経過をどのように踏まえながら、次のステージに持って行くかの真剣な議論が、市町村で始まっています。したがって、子育て環境につきましても、保育協会、それは県立高校なので県の問題ではなくして、それぞれ、子どもをどのように育て、そして、環境をどのように整えるのかを皆んなで考える時代に入ってきているということになるのではと思っています。

本日の答申案をしっかりと受け止めて、確実に実行する方向でさらに体制を整えて、新しい総合計画、総合戦略にきちんと位置付けたいと思っておりますので、その決意の一端を申し述べまして、お礼の言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。

8 報告

○臼井悦男 会長

それでは、8のその他に入ります。
事務局から、何かありますか。

○鈴木英呂 企画総括課長

今回の審議会は、5月7日に開催します。詳細につきましては、あらためてご案内いたしますので、よろしくをお願いします。

○千田孝喜 まちづくり再生担当課長

・遠野駅舎心市街地活性化シンポジウム（5月12日開催）のお知らせ。
全国から 35 名の方々が遠野市に来られる予定です。皆様には、ぜひ、シンポジウムにご参加をお願いします。

○千葉和 委員

・第3回田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会（4月26日開催）のお知らせ。
過去6回、柏木平でも実施しました。皆さんの参加をお願いします。

○臼井悦男 会長

ありがとうございます。皆さんから、他にありませんか。
それでは、進行を事務局にお返しします。ご協力ありがとうございました。

9 開会

○菊池文正 経営企画部長

臼井会長、大変ありがとうございました。以上をもちまして、平成 27 年度第 1 回遠野市総合計画審議会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。